

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03179

研究課題名(和文) 日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究

研究課題名(英文) Iconoclasm in Modern Japan: A Research of Visual Representation on Destruction

研究代表者

丹尾 安典 (Tano, Yasunori)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：00129058

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の近代における美術・視覚文化・表象文化の様々な局面における イコノクラスム、すなわちイメージの破壊の様態を明らかにし、社会における破壊イメージの意義を考察する。日本近代の政変・戦争・災害といった社会的変動は、新たなイメージを創造するのみならず、物理的または精神的な破壊をももたらした。破壊の記録や表現は破壊自体のイメージを形成し、一方で忘却や弾圧により破壊のイメージそのものがさらに破壊されている。本研究は、このようなイメージ終焉の瞬間たる イコノクラスム を前景化し、実証的な研究を通じて日本近代美術史及びイメージ史研究への貢献をはたし、日本近代の視覚文化史的再検討をこころみだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は毎年2回の公開研究会および国際シンポジウムにおいて、日本近代におけるイメージの破壊の諸相を検討した。それら諸事例は、イメージの破壊をより広義の社会的文脈に開き、イメージをめぐる闘争の生じている様を明らかにし、壊れたものによる逆説的な視覚文化史の叙述のこころみとなった。これは日本の近代において自明とされたものへの問い直す作業となった。これらの成果は報告書にまとめられている。

研究成果の概要(英文)：This research clarifies the iconoclasm that was the mode of image destruction and examines its significance in various aspects of modern Japanese art and visual culture. In modern Japan, though social changes such as political upheavals, wars, and disasters created new images, they also affected physical or mental destruction. The records and representations of destruction formed the image of destruction itself, while the images of destruction are further destroyed by oblivion and repression. Through empirical research, this study foregrounds the moment of the end of the image--iconoclasm--which contributes to the study of Japanese modern art and image history and reexamines the cultural history of modern Japanese visual culture.

研究分野：美術史

キーワード：日本近代美術史 視覚文化論 表象文化論 イコノクラスム 破壊のイメージ イメージ論

## 1. 研究開始当初の背景

〈イコノクラスム〉とは、「像 eikon」と「破壊者 klastes」というギリシア語から生まれた「聖像破壊運動」を意味する言葉である。狭義には 8-9 世紀のビザンティン帝国における偶像崇拜を禁じた社会運動を指すが、広義には歴史上の様々な宗教弾圧(仏教における廃仏・法難、宗教改革による画像破壊、革命期におけるヴァンドリスム)のみならず、ナチスドイツによる頽廃芸術弾圧などの政治的破壊活動や、美学的理由による作品の損壊についても用いられている。近年ではテート・ギャラリー(ロンドン)において、16 世紀から現代までのイギリスにおけるイコノクラスムを検討するはじめての大規模な展覧会 *Art under Attack: Histories of British Iconoclasm*(2013-2014) が開催されるなど、美術と社会の関係をめぐって関心の集まっている主題である。

狭義のイコノクラスムに留まらず、アイコンを広く人々の共有する象徴的なイメージとしてとらえ、社会におけるイメージの問題としてとらえる姿勢も、美術史研究において共有されてきている。たとえば国府寺司は「イコノクラスム」を特集した『西洋美術研究』No.6(2001、三元社)「まえがき」において、イコノクラスムを「イメージをめぐる闘争」と定義し、2001 年 9 月 11 日におけるツインタワー崩壊を現代のイコノクラスムとしてとらえる可能性と問題意識を説いている。近年では、文化史や美学の視点からも、破壊や敗北の歴史への探究、また暴力とイメージについて、さらには破壊のひとつの形象である忘却について、積極的にその関係を問う研究や企画も増えている。

本研究は、こうしたイメージの破壊をめぐる研究の蓄積を背景として、日本の近代における〈イコノクラスム〉を考察する。

そもそも明治元年の神仏分離令は、廃仏毀釈というまさしくイコノクラスムを生じさせた。それまでの神仏混淆のあり方は急激にあらためられ、荒廃を経験し、打棄てられた仏堂・仏像や古文書も少なくない。一方で神社は国家神道という新しい制度へ組み入れられることとなった。国是としての近代化は、一面大規模なイメージ破壊の経験とともに進んだとも言えよう。

さらに日本社会は、近代において様々な破壊を体験することになる。たとえば戊辰戦争から太平洋戦争まで連綿と続く争乱と戦争、磐梯山噴火や三陸沖海嘯、関東大震災などの災害、空襲、原子爆弾などによる大量死、社会主義、プロレタリア運動、前衛運動による革命、それらに対する弾圧や検閲、機械化や都市化のもたらした事故や殺人報道など、破壊は物心両面の多様な局面におよぶ。またそれらの破壊の過程は、ときに報道メディアや芸術作品によって様々に可視化され、イメージとして流通しながら、過去に対する集合的な忘却という破壊を形づくるものともなったのである。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本の近代における美術・視覚文化・表象文化の様々な局面における〈イコノクラスム〉、すなわちイメージの破壊の様態を明らかにし、社会における破壊イメージの意義を考察するものである。日本近代の政変・戦争・災害といった社会的変動は、新たなイメージを創造するのみならず、物理的または精神的な破壊をもたらした。破壊の記録や表現は破壊自体のイメージを形成し、一方で忘却や弾圧により破壊のイメージそのものがさらに破壊されている。本研究は、このようなイメージ終焉の瞬間たる〈イコノクラスム〉を前景化し、実証的な研究を通じて日本近代美術史及びイメージ史研究への貢献をはたし、日本近代の視覚文化史的再検討をこころみる。

本研究はとくに次の 3 つの視点において、研究を展開することを目的とする。

### ① 近代日本美術史研究として

本研究のテーマであるイコノクラスムは、美術史上の重要な論点である。これまでに指摘されているように、狭義・広義を問わずイコノクラスムは社会運動としての側面も有している。近代日本におけるイコノクラスムを問い、美術と社会との関係について実証的に検討する。また、海外の日本近代美術研究者と、日本と他地域の比較芸術を行う研究者の参加によって、従来の近代日本美術研究の領野にさらに貢献する。

### ② イメージ学、とりわけイメージの歴史学として

人々が形象化し可視化する視覚イメージを対象とするイメージの学は、美術史のみならず視覚文化論・表象文化論といった領域において、近年イメージ人類学として注目されている(ベルティング『イメージ人類学』)。本研究はそうした趨勢にかんがみつつ、あるイメージが終焉を迎える破壊の瞬間に注目す

る。これはイメージが作られるときだけでなく、生まれ消えるイメージの生命すべての時間を眺めるための視座である。イメージのもつ時間への注目は、イメージが歴史的にいかにかに社会ではたらいのかという点を問ううえで、その視野を広げるものである。

### ③ イメージ-破壊の学として

破壊には不正義として糾弾されるべきものという側面だけでなく、創造にともなう不可避なものとして推進されることも、崇高美のように積極的な価値を見出される可能性もある。イメージの忘却や排除が行われる事例もあれば、不可避の災禍による痛みを乗り越えねばならない場合もある。残酷な破壊のイメージが快楽をひきだす事例も考えられよう。近代化の推進力が破壊へと結実するとき、イメージが破壊には様々な力学が輻輳する。イメージの破壊のイメージ、破壊のイメージの破壊、その双方を考察する本研究の視点は、イメージの破壊をどのように考え得るのかという問題へ、より踏み込みながら考察を加えるものである。

## 3. 研究の方法

### 【研究の方法】

本研究の中心的な考察対象は近代日本におけるイメージの破壊をめぐる様々な事象である。イメージの破壊を扱う本研究においては、「近代」および「日本」の意味するところも問い直される必要がある。したがって研究の遂行にあたっては、参加研究者各自の問題意識を活かしながら、近世から太平洋戦争後の1950年代までをプロジェクトの主たる対象範囲とし、さらに現在の破壊(たとえば建築文化財破壊等)も考察範囲におさめる。対象地域も、沖縄、台湾、朝鮮半島、中国大陸など日本に包含される/近接する地域のみならず、ヨーロッパなど直接・間接に接触した他地域との比較も視野にいれ研究をすすめる。また、問題意識の前提として、今日の社会において展開している破壊の様相をとらえ、研究の現代的意義を積極的に見出す。

本研究は分担者・協力者の研究会活動、共同および個別の研究を基盤とし、具体的には以下の通り遂行される。

- ① 定例研究会の開催(各年2回): 研究成果・研究情報の共有、資料閲覧、打ち合わせを行う。
- ② 研究会・シンポジウムの公開: 公開研究会ならびに国際シンポジウムを開催する。
- ③ 資料調査: 日本国内を中心に資料調査を行う。
- ④ 関連論考の学術発表: 各学会・研究会へ参加し各自研究成果を発表する。
- ⑤ 報告・論集の発行: 最終年度に論集を刊行する。

### 【研究組織】

本研究に参加した共同研究者および研究協力者は以下の通りである。なお、( )内は所属を示すが、一部研究期間中に異動のあったものを含んでいる。

- ・ **代表者:** 丹尾安典(早稲田大学・教授)
- ・ **研究分担者:** 岩切信一郎(東京文化短期大学・教授)、奥間政作(早稲田大学・講師(任期付))河田明久(東京工業大学・教授)、向後恵里子(明星大学・准教授)志邨匠子(秋田公立美術大学・教授)、谷田博幸(滋賀大学・名誉教授)、安松みゆき(別府大学・教授)
- ・ **研究協力者:** 石井香絵(早稲田大学・講師)、遠藤みゆき(東京都写真美術館・学芸員)、大島幸代(中之島香雪美術館・学芸員)、岡戸敏幸(早稲田大学・講師)、岡村恵子(東京都写真美術館・学芸員)、尾崎有紀子(早稲田大学・招聘研究員)、金長隆子(早稲田大学・助手)、神谷幸江(ジャパンソサエティ・ギャラリーディレクター)、喜多孝臣(練馬区立美術館・主任学芸員)、児嶋由枝(早稲田大学・教授)、白政晶子(小田原市立図書館・学芸員)、関直子(東京都現代美術館・学芸員)、瀧井直子(早稲田大学・講師)、鶴岡真弓(多摩美術大学・教授、芸術人類学研究所所長)、徳泉さち(早稲田大学 會津八一記念博物館・助手)、濱田瑞美(横浜美術大学・准教授)、増野恵子(早稲田大学・講師)、村田宏(跡見学園女子大学・教授)、村松裕美(修復家)、タイモン・スクリーチ(ロンドン大学東洋アフリカ研究学院・教授)、ミカエル・リュッケン(フランス国立東洋言語文化研究学院・教授)、ジェニファー・ワイゼンフェルド(デューク大学・教授)

#### 4. 研究成果

本研究は毎年 2 回の公開研究会および国際シンポジウム「破壊と視覚表象——日本近代の〈イコノクラスム〉をめぐって」(早稲田大学、2019 年 7 月 20 日)において、日本近代を中心としたイメージの破壊の諸相を検討した。日本近代という時空間の枠組みも検討するために、隣接する時代や地域についても取り上げられている(後掲研究会・シンポジウム開催暦参照)。本研究の成果は報告書にまとめられた(後掲報告書目次参照)。そのほか、分担者谷田博幸の単著『国家はいかに「楠木正成」を作ったのか 非常時日本の楠公崇拝』(河出書房新社、2019 年)に本研究の一部が反映されている。

本プロジェクトの成果は個々の研究者の達成に預かるものであるが、概観すると以下のようなテーマについて検討を重ねることができた。

- ・ **信仰と破壊**： 廃仏毀釈は日本近代のイコノクラスムのはじまりを告げるものである。また、仏像や「かくれキリシタン」の聖像にみる忘却や変容は、ひとつの信仰のかたちとして成立している。さらに、破壊を肯定的にすらとらえ得るような、浄化のイメージも確認された。
- ・ **災害と破局**： 地震などの自然災害がマスメディアで取り上げられ、より広く伝えられるようになった近代において、災害とその破局の図像は、具体的に破壊のイメージを与えていった。2011 年以降、近年日本列島をおそったいくつかの災害の記憶とともに、災害イメージの検討を行った。
- ・ **集合的記憶と忘却**： 歴史的偉人の像や記念碑は、「いしぶみ」として後世に遺すために建てられながら、社会の変動によって破壊の対象となり、忘却され、読み換えられる。それは歴史認識や解釈によって書き換えられる記述と同様のものである。不変に思えるものが動き、消える様相について考察がなされた。
- ・ **美術と「書」**： 日本近代において、「書」が美術であるかどうかについて論争がたたかわされたのはよく知られるところである。文化・教育制度の成立と変化がどのように「書」の位置づけにかかわり、社会のなかで「書」自体がその意義や見え方を変えていった様子が検討された。
- ・ **破壊そのものをこえて時間を見るということ**： 破壊されたイメージは、イメージの最期というひとつの瞬間をこちらに差し出すことで取り戻せない(かつて)を想起させる。破壊を予期させるイメージは、不安をはらんだ(これから)を予想させる。したがって、破壊のイメージが作られ提示されるとき、そこにはある時間の流れをとまなう想像のいとなみが行われている。その想像の方向付けによって、イメージの破壊はときに強く感情をゆり動かし、ときにいまことは異なる世界を静かに見せて、鑑賞者の情動にかかわってはたらいっている。

本プロジェクトにおける諸事例の考察は、イメージの破壊をより広義の社会的文脈に開き、イメージをめぐる闘争の生じている様を明らかにし、〈壊れたもの〉による逆説的な視覚文化史の叙述のこころみとなった。これは同時に、美術という枠組みへの検討を含む「書」についての論考に典型的であるように、日本の近代において自明とされたものを問い直す作業となった。

#### 【研究会・シンポジウム開催暦】

平成 27(2015)年度

7 月 25 日(土)第一回公開研究会(早稲田大学戸山キャンパス 33 号館 431 教室)

向後恵里子「イメージの破壊・破壊のイメージ—〈イコノクラスム〉についての考察をはじめに—」

丹尾安典「破壊の諸相」

12 月 19 日(土)第二回公開研究会「廃仏毀釈をめぐって」(早稲田大学戸山キャンパス 32 号館 224 教室)

大島幸代「破仏と破損仏——仏像が壊れるということについて」

岩切信一郎「廃仏毀釈の検討—薩摩藩での動向を中心に—」

平成 28(2016)年度

7 月 23 日(土)第三回公開研究会(早稲田大学戸山キャンパス 32 号館 224 教室)

石井香絵「震災の報道と記念事業考察——近代日本の大地震をめぐって」

安松みゆき「破壊・保存と都市——記憶と発展をめぐって(熊本地震の別府の報告を兼ねて)」

12 月 17 日(土)第四回公開研究会(早稲田大学戸山キャンパス 32 号館 224 教室)

河田明久「銅像の応召」

谷田博幸「中島久萬吉の〈尊氏問題〉再考」

平成 29(2017)年度

7月22日(土)第五回公開研究会「『書』を再視する」(早稲田大学戸山キャンパス 32号館 224教室)

丹尾安典「〈書〉の再視を論じ、筆記と刻記におよぶ」

濱田瑞美「〈書〉が表現してきたもの—かたちと気—」

12月16日(土)第六回公開研究会(早稲田大学戸山キャンパス 31号館 201教室)

志邨匠子「占領期の習字をめぐる諸問題」

児嶋由枝「生月かくれキリシタンの聖画と消えた図像——聖体の表現を中心に」

平成 30(2018)年度

7月21日(土)第七回公開研究会(早稲田大学戸山キャンパス 32号館 224教室)

奥間政作「慰霊碑の記憶—死者をめぐるかたちの諸相—」

岡戸敏幸「燬くこと／毀つこと—祝賀と浄化の心性—」

12月22日(土)第八回公開研究会(早稲田大学戸山キャンパス 32号館 224教室)

喜多孝臣「検閲と転向——プロレタリア美術運動における二つの破壊について」

安松みゆき「ドイツ第三帝国時代の美術をめぐる 2017 年の展覧会動向」

令和 1(2019)年度

7月20日(土)国際シンポジウム「破壊と視覚表象——日本近代の〈イコノクラスム〉をめぐる」(早稲田大学小野記念講堂)

パネリスト: タイモン・スクリーチ「難破船の図像学」、ジェニファー・ワイゼンフェルド「護れ大空！——戦時期の防空文化をめぐる」、ミカエル・リュケン「記憶の矛盾——原爆の写真と原爆の絵について」、丹尾安典「皇室菊紋破壊の様態」

司会: 向後恵里子

12月7日(土)第九回公開研究会(早稲田大学戸山キャンパス 32号館 224教室)

向後恵里子「破壊の展示——〈正しい〉イコノクラスムをめぐる」

丹尾安典「総括にかえて」

### 【研究成果報告書目次】

石井香絵「震災の報道と記念事業にみる視覚イメージ—濃尾地震, 明治三陸地震, 北丹後地震を中心に—」

岩切信一郎「薩摩藩の廃仏毀釈とその後の動向」

大島幸代「仏像が壊れることをめぐる諸問題」

岡戸敏幸「燬くこと, 毀つこと—破壊に託された祝賀と浄化の心性—」

河田明久「銅像の「応召」と「公職追放」」

向後恵里子「破壊の展示—〈正しい〉イコノクラスムをめぐる」

志邨匠子「毛筆習字教育の存廃をめぐる諸問題」

谷田博幸「昭和 13 年(1938)湊川神社大鳥居崩落の顛末」

丹尾安典「早稲田大学文学部校舎 33 号館(村野藤吾設計)の破壊と記憶の保存」

濱田瑞美「『書』が表現してきたもの—かたちと気—」

安松みゆき「戦後ドイツの建築にみるイコノクラスム—建築をめぐる脱ナチ化の動向—」

Gennifer Weisenfeld, *Protect the Skies! Visualizing Civil Air Defense in Wartime Japan*

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 石井香絵	4. 巻 0
2. 論文標題 震災の報道と記念事業にみる視覚イメージ_ 濃尾地震, 明治三陸地震, 北丹後地震を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩切信一郎	4. 巻 0
2. 論文標題 薩摩藩の廃仏毀釈とその後の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大島幸代	4. 巻 0
2. 論文標題 仏像が壊れることをめぐる諸問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡戸敏幸	4. 巻 0
2. 論文標題 燬くこと, 毀つこと 破壊に託された祝賀と浄化の心性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河田明久	4. 巻 0
2. 論文標題 銅像の応召と公職追放	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 向後恵里子	4. 巻 0
2. 論文標題 破壊の展示 正しい イコノクラスムをめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志邨匠子	4. 巻 0
2. 論文標題 毛筆習字教育の存廃をめぐる諸問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷田博幸	4. 巻 0
2. 論文標題 昭和13年(1938)湊川神社大鳥居崩落の顛末	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 69-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹尾安典	4. 巻 0
2. 論文標題 早稲田大学文学部校舎33号館(村野藤吾設計)の破壊と記憶の保存	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 81-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱田瑞美	4. 巻 0
2. 論文標題 書が表現してきたもの かたちと気	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 121-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安松みゆき	4. 巻 0
2. 論文標題 戦後ト_イツの建築にみるイコノクラスム 建築をめぐる脱ナチ化の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 129-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gennifer Weisenfeld	4. 巻 0
2. 論文標題 Protect the Skies! Visualizing Civil Air Defense in Wartime Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究成果報告書『日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究』	6. 最初と最後の頁 141-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 安松みゆき	4. 巻 61
2. 論文標題 戦後ドイツの脱ナチ化をめぐって ナチの象徴的建築を事例に(4)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『別府大学紀要』	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) ISSN02864983	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 向後恵里子	4. 巻 0
2. 論文標題 惨澹たるもの 日露戦争における破壊された身体をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『如是我聞録』	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河田明久	4. 巻 --
2. 論文標題 収集から接收へ 占領期の戦争画	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『没後50年 藤田嗣治展』図録	6. 最初と最後の頁 155
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安松みゆき	4. 巻 60
2. 論文標題 戦後ドイツの脱ナチ化をめぐって 2017年度開催の展覧会を事例に(3)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 別府大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丹尾安典	4. 巻 20
2. 論文標題 書を再視するためのノート	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学會津八一記念博物館紀要	6. 最初と最後の頁 128-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志邨匠子	4. 巻 26
2. 論文標題 近代におけるアメリカでの日本美術展	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 近代画説	6. 最初と最後の頁 76-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安松みゆき	4. 巻 20
2. 論文標題 画家ツェッペーリエ・グラフ・プファフとユダヤ人画商 -ナチ略奪書籍の蔵書票を契機に-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 別府大学院紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安松みゆき	4. 巻 59
2. 論文標題 戦後のドイツにおける脱ナチ化の様相 (2) ミュンヘンの場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 別府大学院紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 向後恵里子	4. 巻 26
2. 論文標題 日露戦争の美術—戦争画・従軍画家・美術国	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 近代画説	6. 最初と最後の頁 94-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 向後恵里子	4. 巻 共著
2. 論文標題 木口木版による 近代の戦争 の図解—日清戦争を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 木口木版のメディア史 近代日本のヴィジュアルコミュニケーション	6. 最初と最後の頁 240-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹尾安典	4. 巻 53
2. 論文標題 L' image de l' empereur apres la guerre	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 比較文学年誌	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安松みゆき	4. 巻 19
2. 論文標題 戦後のドイツにおける破壊と保存 (1) ベルリンの場合	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 別府大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 107-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 向後恵里子
2. 発表標題 破壊の展示 正しい イコノクラスムをめぐって
3. 学会等名 第九回公開研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹尾安典
2. 発表標題 総括にかえて
3. 学会等名 第九回公開研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 向後恵里子
2. 発表標題 日清戦争錦絵にみる身体の表象－視覚メディアとしての錦絵を読む
3. 学会等名 学術フォーラム：東アジア近代史視覚資料の再発見（東京経済大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 タイモン・スクリーチ
2. 発表標題 難破船の図像学
3. 学会等名 国際シンポジウム「破壊と視覚表象 日本近代の イコノクラスム をめぐって」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジェニファー・ワイゼンフェルド
2. 発表標題 護れ大空！ 戦時期の防空文化をめぐって
3. 学会等名 国際シンポジウム「破壊と視覚表象 日本近代の イコノクラスム をめぐって」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ミカエル・リュケン
2. 発表標題 記憶の矛盾 原爆の写真と原爆の絵について
3. 学会等名 国際シンポジウム「破壊と視覚表象 日本近代の イコノクラスム をめぐって」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹尾安典
2. 発表標題 皇室菊紋破壊の様態
3. 学会等名 国際シンポジウム「破壊と視覚表象 日本近代の イコノクラスム をめぐって」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志邨匠子
2. 発表標題 戦時・占領期における書教育
3. 学会等名 早稲田大学文化芸術週間 2018年度シンポジウム：「書」を再視する
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丹尾安典
2. 発表標題 基調講演「書を再視するためのノート」
3. 学会等名 早稲田大学文化芸術週間 2018年度シンポジウム：「書」を再視する
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥間政作
2. 発表標題 慰霊碑の記憶 死者をめぐるかたちの諸相
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究 第7回公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡戸敏幸
2. 発表標題 燬くことノ毀つこと 祝賀と浄化の心性ー
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究 第7回公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 喜多孝臣
2. 発表標題 検閲と転向 プロレタリア美術運動における二つの破壊について
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究 第8回公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安松みゆき
2. 発表標題 ドイツ第三帝国時代の美術をめぐる2017年の展覧会動向
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究 第8回公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 向後恵里子
2. 発表標題 惨たる死のメモラピリアとスペクタクル 日露戦争と尼港事件を題材として
3. 学会等名 第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会、分科会3、C3自由発表パネル「近代東アジアにおける戦争・植民地・労働」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丹尾安典
2. 発表標題 書 の再視を論じ、筆記と刻記におよぶ
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム : 破壊をめぐる視覚表象研究 第5回公開研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 濱田瑞美
2. 発表標題 書 が表現してきたもの かたちと気
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム : 破壊をめぐる視覚表象研究 第5回公開研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志邨匠子
2. 発表標題 占領期の習字をめぐる諸問題
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム :破壊をめぐる視覚表象研究 第6回公開研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 児島由枝
2. 発表標題 生月かくれキリシタンの聖画と消えた図像：聖体の表現を中心に
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム :破壊をめぐる視覚表象研究 第6回公開研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安松みゆき
2. 発表標題 捕虜達のデザインカ 「板東収容所」とウィーン世紀末美術
3. 学会等名 「板東収容所」開所100周年記念・ユネスコ「世界の記憶」登録推進会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 向後恵里子
2. 発表標題 戦争イメージの輻輳－複製・波及・相互参照
3. 学会等名 日本のスクリーン・プラクティス再考：視覚文化史における写し絵・錦影絵・幻燈文化
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 石井香絵
2. 発表標題 震災と報道と記念事業考察 近代日本の大地震をめぐって
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム : 破壊をめぐる視覚表象研究 第3回公開研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 安松みゆき
2. 発表標題 破壊・保存と都市 記憶と発展をめぐって(熊本地震の別府の報告を兼ねて)
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム : 破壊をめぐる視覚表象研究 第3回公開研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河田明久
2. 発表標題 銅像の「応召」と「公職追放」
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム : 破壊をめぐる視覚表象研究 第4回公開研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 谷田博幸
2. 発表標題 中島久萬吉の 尊氏問題 再考
3. 学会等名 日本近代における イコノクラスム : 破壊をめぐる視覚表象研究 第4回公開研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河田明久
2. 発表標題 藤田嗣治の戦争と美術
3. 学会等名 「生誕130年記念 藤田嗣治展 東と西を結ぶ絵画」関連講演（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河田明久
2. 発表標題 日本人の身体をもとめて
3. 学会等名 アジア・アートウィーク フォーラム「波紋-日本、マレーシア、インドネシア美術の20世紀」基調講演（「BODY/PLAY/POLITICS」展関連イベント）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 向後恵里子
2. 発表標題 戦場から持ち帰られる血 日露戦争における血の幻影
3. 学会等名 表象文化論学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 向後恵里子
2. 発表標題 拳国一致から美術国へー日露戦争と美術をめぐって
3. 学会等名 明治美術学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 丹尾安典
2. 発表標題 破壊の諸相
3. 学会等名 科研「日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究」第1回研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 向後恵里子
2. 発表標題 イメージの破壊・破壊のイメージ イコノクラスム についての考察をはじめるとあって
3. 学会等名 科研「日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究」第1回研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 大島幸代
2. 発表標題 破仏と破損仏 仏像が壊れるということについて
3. 学会等名 科研「日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究」第2回研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 岩切信一郎
2. 発表標題 廃仏毀釈の検討ー薩摩藩での動向を中心にー
3. 学会等名 科研「日本近代における イコノクラスム 破壊をめぐる視覚表象研究」第2回研究会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 谷田 博幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 352
3. 書名 国家はいかに「楠木正成」を作ったのか	

1. 著者名 丹尾 安典	4. 発行年 2019年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 320
3. 書名 男色の景色	

1. 著者名 河田明久	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 上巻総441頁・下巻総609頁(解題33頁)
3. 書名 「戦争美術の証言」を読む 『美術批評家著作選集 第21巻 戦争美術の証言』(上・下)	

1. 著者名 岩切信一郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京美術	5. 総ページ数 総96頁の内70-73頁
3. 書名 「省亭の木版世界」 『渡辺省亭』岡部昌幸監修	

1. 著者名 岩切信一郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 凸版印刷株式会社・印刷博物館編集発行	5. 総ページ数 総300頁の内p8-13
3. 書名 「武者絵考 文化現象としての武者絵」 『武士と印刷』	

1. 著者名 向後恵里子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 総495頁のうち68-91頁
3. 書名 「英雄の古層－日露戦争における武士と兵士のアナロジー」 『幕末・明治 移行期の思想と文化』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	志邨 匠子  (Shimura Shoko)  (00299926)	秋田公立美術大学・大学院・教授   (21403)	
研究分担者	谷田 博幸  (Tanita Hiroyuki)  (10179848)	滋賀大学・教育学部・教授   (14201)	
研究分担者	安松 みゆき  (Yasumatsu Miyuki)  (40331095)	別府大学・文学部・教授   (37502)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥間 政作 (Okuma Sesaku)  (40711213)	早稲田大学・文学学術院・講師（任期付）  (32689)	
研究分担者	向後 恵里子 (Kogo Eriko)  (80454015)	明星大学・人文学部・准教授  (32685)	
研究分担者	河田 明久 (Kawata Akihisa)  (90277781)	千葉工業大学・工学部・教授  (32503)	
研究分担者	岩切 信一郎 (Iwakiri Shin'ichiro)  (50289922)	新渡戸文化短期大学・その他部局等・教授  (42651)	
研究協力者	石井 香絵 (kae Ishii)		
研究協力者	遠藤 みゆき (Endo Miyuki)		
研究協力者	大島 幸代 (Oshima Yukiyo)		
研究協力者	岡戸 敏幸 (Okado Toshiyuki)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡村 恵子  (Okamura Keiko)		
研究協力者	尾崎 有紀子  (Ozaki Yukiko)		
研究協力者	金長 隆子  (Kanenaga Takako)		
研究協力者	神谷 幸江  (Kamiya Yukie)		
研究協力者	喜多 孝臣  (Kita Takaomi)		
研究協力者	児嶋 由枝  (Kojima Yoshie)		
研究協力者	白政 晶子  (Shiromasa Akiko)		
研究協力者	関 直子  (Sekki Naoko)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	瀧井 直子  (Taki Naoko)		
研究協力者	鶴岡 真弓  (Tsuruoka Mayumi)		
研究協力者	徳泉 さち  (Tokuizumi Sachi)		
研究協力者	濱田 瑞美  (Hamada Tamami)		
研究協力者	増野 恵子  (Mashino Keiko)		
研究協力者	村田 宏  (Murata Hiroshi)		
研究協力者	村松 裕美  (Muramatsu Hiromi)		
研究協力者	スクリーチ タイモン  (Screech Timon)		



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	ワイゼンフェルド ジェニファー  (Weisenfeld Gennifer)		
研究 協力者	リュッケン ミカエル  (Lucken Michael)		